

週報

令和 5 年 3 月 3 日

2022~2023年度 No.26

2022-23年度 国際ロータリーのテーマ



国際ロータリー会長 ジェニファー E. ジョーンズ

プログラム

S A A 有川 真史君

☆点 鐘

☆国歌斉唱「君が代」

☆ロータリーソング斉唱

「奉仕の理想」

☆四つのテスト唱和 職業奉仕委員会

☆誕生祝

☆食事懇談

☆会長の時間

☆幹事報告

☆委員会報告

①親睦委員会

・スマイルボックス報告

☆部内卓話

「インターシティミーティングに参加して」

藤川 博士君

☆点 鐘

現在会員					30名			前々回の欠席者(2/3)						2名	
本 日	出席	18名	欠席	6名	免除(a)欠席	3名	免除(b)欠席	3名	出席率				75.00%		
	出席	18名	MU	3名	免除(a)MU	3名	免除(b)MU	4名	修正出席率				91.30%		
月別出席率%	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6			
	本年度	75.55	81.16	83.53	77.58	89.84	89.31	87.32							
	前年度	74.94	休会	休会	81.53	77.59	73.49	85.71	休会	70.49	69.74	70.51	77.60		

例会場 カンパーナホテル TEL(0959)72-8111
例 会 金曜日(12時30分~13時30分)
事 務 所 長崎県五島市末広町8-4
福江商工会議所内 TEL(0959)72-3108

会 長 才 津 喜 彦
副 会 長 中 村 吉 廣
幹 事 西 上 裕 一郎
雑誌:会報委員長 寺 澤 信 義

誕 生 祝

小畑 和男君(昭和29年3月1日生)



会長の時間

会長 才津 喜彦君

皆様、こんにちは。それでは3月度第1例会26回目の会長の時間を始めます。

2月19日(日)長崎出島メッセで、国際ロータリー第2740地区第9・10グループインターシティミーティング(IM)が開催されました。前日、当日と若干ではありますが雨・風が心配されましたが、船も欠航することなく、福江ロータリークラブより14名で参加して参りました。内容に関しましては藤川さんよりIM報告がありますので、宜しくお願ひしたいと思います。今年度もガバナー公式・地区大会・IMと島外の方々と交流する大きな事業が終了し、少しではありますが肩の荷も軽くなってきました。が、まだまだあと4ヵ月、年度当初立てました事業計画を一つでも多く遂行して頂きますよう、宜しくお願ひ致します。

それでは今週の「来たらおいしいイチオシ馬」の前に前回の結果ですが、推奨しました⑬スピーディキック6着でした。正直、地方にはない芝からのスタート・外⑬枠と不安材料も多かったのですが、まさにその不安が的中してしまいました。好スタートは切れましたが、やはり中央の馬とはスピードが違い、結果的に後方から3番手に、内側で脚をためて最後の直線にかけましたが、進路がなく馬込の中を狙いましたが、2度ほど進路をふさがれ結局ちゃんと馬を追えたのが残り100m位からで余力を残したままの6着。しかし、最後の脚は勝ち馬の⑦レモンポップとも遜色のない脚色でした。今後も地方の重賞ならもちろんの事、中央でもレースを選べばしっかり活躍出来る馬だ

と確信しました。

また今回は、IM前日の夜に「来たらおいしいイチオシ馬IM編」という事で、2月19日(日)小倉競馬場で開催された小倉大賞典(GⅢ芝1800m)より①カテドラル(9番人気)推奨し、見事2着でした。①カテドラル牡7歳馬でピークは過ぎていますが、何せ小倉は走る馬です。近走掲示板(5着以内)にのったのが小倉競馬場のみで、それも6番人気・10番人気・9番人気。今回も後方に控え、内側の悪くなった小倉の馬場を避け、外を回すのでなく馬込の中から外に出す団野大成騎手の好騎乗もあり、勝ち馬2番人気⑥ヒンドゥタイムズとハナ差。勝ってもおかしなかったレースお見事でした。

さて、今週は3月4日(土)中山競馬場で開催されるオーシャンステークス(GⅢ芝1200m)からです。このレースの1着馬は、3月26日(日)中京競馬場で開催される高松宮記念(GⅠ芝1200m)への優先出走権があたえられます。今回推奨する馬は、⑫タイムトゥヘブン(9番人気想定オッズ31.1倍)です。⑫タイムトゥヘブンは昔から追いかけている馬で、後方からのキレのある末脚が魅力の馬です。近走結果が出ていませんが、上がりの3ハロン(残り600m)のタイムは常に3着以内に入っています。また、父ロードカナロア産駒は前走より距離短縮した場合に良い結果を出すと言われていました。今回、父ロードカナロア産駒4頭出走の中、⑫タイムトゥヘブンのみが前走より距離短縮になります。また、父ロードカナロア自体も国内外で芝1200mのGI6勝のプリンターでした。⑫タイムトゥヘブン自体、今回が初の1200m戦、また末脚を生かすにくい直線の短い中山競馬場と不安材料はありますが、競馬はブラッドスポーツとも言われます。父ロードカナロアのプリンターの血が爆発することに期待し、今回は⑫タイムトゥヘブンを推奨したいと思います。以上で会長の時間を終わります。

幹事報告

幹事 西上裕一郎君

【当クラブ関係】

- 第9回定例理事会
 - ・本日の例会終了後開催

【地区関係】

- 長崎南RCより

- ・IMご出席の御礼
- 長崎東・長崎南・長崎北・長崎出島RCより
- ・例会変更・休会のお知らせ

【地区以外ロータリークラブ関係】

- 国際ロータリー日本事務局財団室より
- ・「財団室NEWS」3月号
- 国際ロータリー日本事務局経理室より
- ・2023年3月のロータリーレート
- 1ドル136円
- 福江中央RCより
- ・週報第20号
- 「ROTARY」(英語版) 2023年3月号

- ◇張本 民雄君
- ◇山下 実君
- ◇平村 和弘君
- ◇神之浦文彦君
- ◇橋本 武敏君
- ◇宮本 光藏君
- ◇三村 剛孝君

合計 18,000円
通算合計 521,000円

委員会報告

出席報告

- ◆ 3月3日(免除(a)欠席者)
- 中村 博義君 植松 郁雄君 釜崎 洋君
- ◆ 3月3日(免除(b)欠席者)
- 谷川 和啓君 佐々野邦久君 清瀧 誠司君
- ◆ 3月3日欠席者
- 松岡 孝博君 寺澤 信義君 片山 雅文君
- 柳田 靖夫君 山里 一郎君 坂井 成光君

親睦委員会

スマイル報告

- ◇小畑 和男君 誕生祝、ありがとうございます。藤川博士さん、卓話よろしくお願ひします。
- ◇藤川 博士君 本日の卓話、ご清聴よろしくお願ひします。
- ◇才津 喜彦君 小畑和男さん、誕生日おめでとうございます。
- ◇中村 吉廣君
- ◇西上裕一郎君
- ◇中村 栄治君
- ◇戸田 博之君
- ◇山下 克己君
- ◇森田 大輔君
- ◇有川 真史君
- ◇吉田 泰之君 藤川博士さん、卓話よろしくお願ひします。

部内卓話

「インターシティミーティングに参加して」

藤川 博士君



皆さんこんにちは。先月開催されましたインターシティミーティング(IM)に参加してきましたので、報告をさせていただきます。

2022~2023年度国際ロータリー第2740地区第9・第10グループのIMは、2月19日(日)に出島メッセ長崎において開催され、当クラブからも14名参加してまいりました。当日は、第9・第10グループの12クラブ登録者数514名中、第1部の式典に293名、第2部の懇親会に276名が参加し開催されました。

第1部の式典は14時に開会し、ホストクラブの「長崎南ロータリークラブ」の石丸会長の点鐘後、「君が代」斉唱、ロータリーソング「奉仕の理想」斉唱と続き、中牟田IM実行委員長より「歓迎の言葉」があり、中牟田実行委員長からは、ここ2年コロナ禍の制約がある中、オンラインを使ったハイブリッド式での開催や懇親会の中止等もあり、今回の開催をどうするかを最後まで議論し悩んだという話がありました。結果、3年ぶりに第1部の式典・文化シンポジウム、第2部の懇親会を通常どおりに開催することができ、多くの参加をいただき感謝するとお礼の言葉がありました。引続き、石丸ホストクラブ会長による「来賓紹介」、第9・第10各グループガバナー補佐による「出席

クラブ紹介」後、第2740地区上村ガバナーより挨拶があり、第1部の式典は滞りなく終了しました。

次に、第1部の文化シンポジウムはテーマを「長崎を語る」、サブテーマを『「長崎とは何ぞや」「形づくられた精神文化とは」それらを紐解き説き明かすことは、長崎の次なる時代の新たな創造の基盤となる』と題し、コーディネーターに長崎市長崎学研究所所長「赤瀬浩氏」、シンポジストに長崎大学多文化社会学部教授「木村直樹氏」、長崎放送株式会社業務局長「塚田恵子氏」により楽しい話を聞くことができました。

赤瀬氏は1961年生まれで長崎市出身。長崎大学を卒業後、長崎県公立学校教員として本土や離島の小学校に勤務され、傍ら長崎町人の研究に努められ、現在は長崎市長崎学研究所所長として江戸期長崎の町の歴史の研究を専門にされ、NBC長崎放送の長崎くんち、長崎精霊流しの解説者としても活躍されています。小学校教員時代に三井楽小学校で5年間の勤務経験もあり、異動になり長崎市内の佐古小学校で勤務したそうですが、三井楽小学校の子供たちの方が都会の子供だと感じたそうです。これは、自衛隊があり大変教育熱心で両親もいろんな大学を出ていたことも影響していたのかなと思うし、五島は大変教育熱心なところで、いろんなことを学べたと仰っていました。また、長崎学研究所というのは純心大学にもあり、それを知らずに長崎市長が長崎学研究所を作ると言った時に、片岡学長から怒られたそうで、頭に長崎市をつけ長崎市長崎学研究所となったそうです。

木村氏は1971年生まれで東京都東村山市出身。東京大学文学部卒で同大学大学院人文社会系研究科博士課程を中退後、東京大学資料編纂所に入所され、もともと江戸時代の日本とオランダの交流等を研究されており、長崎らしい学問をするということで2013年に創設された長崎大学多文化社会学部の教授として長崎に来られたそうです。小学校の運動会では、東村山音頭を踊っていたそうです。

塚田氏は1964年生まれで福岡県北九州市出身。早稲田大学卒業後、長崎放送にアナウンサーとして入社。現在は業務局長として管理職業務を10年やっているそうですが、月曜日の夜7時から30分番組で、ラジオのインタビュー番組「あの人この歌ああ人生」を続けており、迎えたゲストは900人を超えるそうです。

まず、赤瀬さんよりシンポジストへ長崎との縁はという質問に対し木村さんは、日本とオランダ

の事を研究しているのは日本で20人もおらず、ちょうど適齢とのことで長崎大学から声がかかったそうで、学生時代にも長崎に来て研究をしていたそうです。長崎というのは歴史的に非常に面白い街で個性的な街と思うし、対馬や五島にも資料調査に行ったとのこと。

塚田さんは、長崎を意識したのが「さだまさし」さんの歌で、中学生の時に初めて買ったアルバムが「帰去来」で「絵はがき坂」という歌詞に「活水あたりはまだ絵はがきどおりの坂」というのがあり、すごく憧れたそうで高校生の時に女子4人で寝台列車で長崎に来て、当然「活水あたりはまだ絵はがきどおりの坂（オランダ坂）」にも行くわけですが、「日本三大がっかり名所」にも入っているそうで「あ〜」と思ったそうです。また、大学卒業という時にアナウンサーに憧れがあったが、就職活動をしたのが1986年の男女雇用機会均等法が施行された前年で、平気で男性社員何人という時代で、地元福岡の放送局は男性アナウンサーしか採用がなく、長崎放送で女性アナウンサーという枠があり長崎に来たそうです。

最初のテレビの仕事が「窓をあけて九州」で、レポーターが必ず取材をするという番組で「かんちゃんか咲かせた五島の花」という福江で頑張っている女性を描いた番組の取材で入社早々五島に行って、思っていたより難しいのだなという良い経験をされたそうです。

赤瀬さんからは、活水のオランダ坂が「日本三大がっかり名所」と言われているが、これを説明してオランダ坂がいかにすごいことかと感動していただくのが自分の仕事であるとのことでした。実は長崎の名所とか旧跡は、どこでもそうかもしれないが、すべて人間が作った作り物で、オランダ坂の石畳は中国風の石畳だそうです。

「めがね橋」のところにいったら橋が狭い単位で並んでいるが、あれは中国の方が長崎に来て、そして長崎人になっていく中で、その時にプレゼントを贈るそうで、プレゼントの中で一番高級なものがお寺、次に石畳を敷くこと、そして目に見えて一番簡単なのが石橋をかけることで、プレゼントをどんどんやっていったらあんなに密集したそうです。

長崎の町の特徴について、塚田さんは長崎に来て最初に住んだところが愛宕の方で、会社から帰るときにバスに乗っており横を見たら馬がいたそうで、当時まだ「対州馬」が引越しの荷物を運んでおり驚いたそうです。

赤瀬さんによると、長崎は昭和40年前位までは

そんなに斜面に住宅はなかったそうで、これが造船等で景気が良くなり、今考えると無計画に建てて資材を馬に運ばせるしかなかったそうです。私が長崎営業所へ入社した昭和58年頃も、斜面の狭い階段を馬が資材を運んで登って行くのを見たとき、大変驚いた記憶があります。

木村さんは長崎の港の特徴について、町と港が近くて水深が深く、波が安定していることが最大の特徴で、大きい船が入ってきやすくなる。今から450年前にポルトガル船が、なぜ長崎港を選んだかは当時としては大型船でも座礁しない、かつ波が安定しているという条件を満たしていたからと仰っていました。

赤瀬さんからは、長崎に来るクルーズ船の船長さんが世界のいろんな港に行かれるそうですが、長崎の港が一番きれいだという感想がたくさん出るそうで、長崎の港で一番きれいなのは、長崎の港に入ってきて左右の山の上まで住宅があって、その町の中に入って行くという体験というのはなかなかないそうで、長崎の玄関口は本当は港なんだなというのがはっきりわかり、裏口が駅で、長崎を表口から入ってこられるような体験をしていただくと、長崎がどんな街なのかがよくわかるということでした。

赤瀬さんから、長崎で少し勿体ないなとか惜しいなとかありますかとの質問に、木村さんは実際に住んでみて驚いたことに、例えば路面電車に乗ってみて大きな荷物を持っていると、座っている方が持ちましようかと言って膝の上に荷物を置いてくれたり、そういうことは驚いたそうで、東京の地下鉄でそんな事をやったら大体盗まれると思うわけで、長崎の方はそうやってもてなして、来てくれた方をサポートして、すごいことだと思っていて、勿体ないところは面白さをもっとわかりやすく、他の地域とはここが違うんですよっていうことを前に出していった方がいいんじゃないかと思うということでした。

長崎は450年という歴史があるが、500年とか550年とか将来の長崎はどんな姿になっているんでしょうかとの質問に木村さんは、明治時代の1920年に日本で初めて国勢調査が行われ、長崎は九州で第一位の都市で、博多はその半分以下の状態だったそうです。西日本新聞が1901年に社説を載せ、そこに面白いことが書いてあり「われわれの居る福岡は今後100年後にはどうなるのだろう。長崎になることは難しいから頑張って熊本を目指そう」と書いてあり、それが50年位経つと抜かれてしまい、50年、100年というスパンを見ると、人口の

動態は大きく変わるということでした。長崎は少し人は減りつつあるが、同時に今こそ人に投資をしたり、人を大切にすることをする。それが街の発展だと思うし、その時に今以上に文化的なものを入れていくといいかなとのことでした。

塚田さんは、定住人口に拘らない街づくり、交流人口を増やして行くことによって発展していく街づくりがいいのかなと思っている、とのことでした。

会場にいる皆さんのように、地元で頑張っているという姿が非常に重要で、それがないと前には進まないと思っているとのことでした。

終わりに、コ・ホストクラブの山本会長による「閉会の辞」、ホストクラブの石丸会長の「点鐘」で第一部を終了しました。

第二部の懇親会は、会場をホテルニュー長崎に移動し、第10グループ鶴田ガバナー補佐による挨拶後、ロータリー合唱団「ハミングバーズ」による「翼をください」「宇宙戦艦ヤマト」などアンコールを含めて4曲の合唱後、第9グループ辻村ガバナー補佐による乾杯により、懇親会がスタートしました。

ハミングバーズのメンバーの方にお話を聞いたところ、平均年齢は72歳くらいで、最高齢は88歳とのことでした。学生時代のコーラス経験者は5～6名程度だそうです。ほとんどがカラオケの歌を聴いてスカウトされて入った方だそうです。宴もたけなわ中、第2740地区山下幹事による万歳三唱で第二部懇親会はお開きとなりました。

当クラブの二次会の報告は割愛させていただきますが、長崎の街を堪能し、親睦を深めることができたのではと思っています。

最後になりますが、今回のIMで多くの事を学ぶことができたと思っています。

ご清聴ありがとうございました。